

動けなくなることで、
見えてきたもの

映画上映会のすぐ後に
出演者の海老原宏美さん&
穴戸大裕監督をお招きして
のイベント開催！！

2018年上映
7/15
(日)

風は生きよという

穴戸大裕 監督作品

呼吸器から吹く風に乗れ、つながりあう人と人との物語

監督・撮影・編集・ナレーション：穴戸大裕 音楽：末森樹 整音：米山靖 アニメーション：植田秀蔵 撮影協力：神吉真輔 高橋順二
宣伝写真：齋藤陽道 宣伝デザイン：玉利公節 助成：公益財団法人キリン福祉財団 企画・製作：全国自立生活センター協議会
配給：「風は生きよという」上映実行委員会 2015年/日本/81分/ドキュメンタリー
www.kazewaikiyotou.jp



<場所> 旭川市障害者福祉センターおびった 2階会議室1

<時間> 13:30~16:30 (13:00開場)

<主催> 障害児も地域の普通学級へ・道北ネット

<共催> CILラピタ

<後援> 旭川市、教育委員会、北海道新聞社、(株)北のまち新聞社、ライナーネットワーク、
インクルネットほっかいどう

文部科学省特別選定
少年・青年・成人・家庭向き

存在を否定され、死ぬ自由を突き付けられ、
それでもなお地域社会に分け入っていく勇敢な呼吸器ユーザーたち。
今までこんな風には彼らを見たことはなかった。
存在理由を獲得していく彼らの姿が逞しく眩しく映っていた。
世界を救うヒーロー・ヒロインに見えてきた。
川口有美子 【作家・日本 ALS 協会理事】

「出来ないことがすごいたくさんある中で、
障害者が出来る大きい仕事ってというのは、
外に出て人目について、
人の意識の中に障害者の存在を
ちよっとでも根付かせていくこと」

人工呼吸器は、呼吸を助ける道具です。
そこから吹いてくる風が、人と人とをめぐり合わせてくれます。

風は生きよという

追い風は、ときどき前からふいてくる。

もしもあなたが、病気や障害のために身体を動かさなく
なったとしたら、どんな人生を想像しますか？

映画が映し出したのは、ふつうの街でふつうの生活を送る人びと。
特別なことといえば、呼吸するための道具・人工呼吸器を使用している
ことくらい。淡々とその生活を映し出し、歩んできた人生を見つめた時、
浮かんできたのは日常の尊さ。たくさんの支援が必要だからこそ、多くの
人に会え、自由に動くことができないからこそ、生きてあることに感動する。
じんわりとこころを揺する、人と人が織りなす物語。

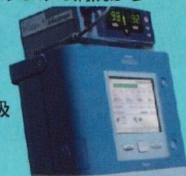
もしもあなたに、思うように身体を動かさない、そんな日が来た時は思い出してほしいのです。映画の中を駆け抜けていた、風の音を。その風に包まれた人と人とが、支えあ
いながら生きていたことを。



【お問合せ】「風は生きよという」上映実行委員会
〒192-0046 東京都八王子市明神町 4-11-11 シルクヒルズ大塚 1F (全国自立生活センター協議会内)
TEL:042-660-7747 FAX: 042-660-7746 Mail: kazewaikiyotoiu@gmail.com
2015年/日本/81分/ドキュメンタリー www.kazewaikiyotoiu.jp

【人工呼吸器とは？】

障害や病気により、肺を動かす筋力が弱い
人たちの呼吸を補助する医療機器です。
様々な種類があり、かかりつけの病院から
レンタルされています。
呼吸の回数や量、リズム
などを細かく設定する
ことで自分に合った呼吸
ができます。



2018年上映

7/15
(日)

- <場 所> 旭川市障害者福祉センターおびった 2階会議室1
北海道旭川市宮前1条3丁目3-7 (0166-45-0750)
<時 間> 13:30~上映会・海老原さん&監督とディスカッション
<入場料> 1,000円 (中学生以下無料) ☆限定100席☆
<チケット> まちなかぶんか小屋 (0166-23-2801)
<問い合わせ> 平田 (080-9619-3708) ※電話予約可